
異邦のよろず屋さん

いたちごっこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異邦のよろず屋さん

【Nコード】

N3200Z

【作者名】

いたちごっこ

【あらすじ】

神様宝くじに見事？当選し異世界トリップ権を獲得し、すっごい（チート）能力を貰い異世界で色々な物を作っていくお話です。

くプロローグ

「オメデトウゴザイマス！」

「えー貴方は神様主催裏ジャンボ宝くじ（異世界トリップ権）に当選しましたあ〜。」

「パチパチ〜w」

「は・・・？ 何言ってるの？」

「んー、まあそーゆう反応になりますよね。」

「とりあえず説明しますね。」

「その前にと、えっと・・・お名前は嘉瀬慎吾かせしんごさんで合っていますか？」

「ああ、合っている。」

「では詳しい説明を・・・と言いたい所ですが、面倒なのではしよらせてもらいますね^^」

「おいおい！ますね^^、じゃないだろ。」

「だって面倒なんだもん。」

「じゃあ簡単に言いますね、嘉瀬さんが買ったジャンボ宝くじが100年周期に行っている神様宝くじと連動してまして、とは言っても人間の方は知りませんよ、それで見事当選されたという感じですよ。」

「それで？」

「どうされますか？」

「異世界トリップ権を行使されます？それとも放棄されますか？」

「それを決める前に聞きたいことがあるんだがいいかな？」

「はい、なんですかあ？」

「異世界に行くにあたって特典はあるのかな？あれば行きたいけど・・・。」

「たとえば、身体能力が格段に上がるとか、特殊能力が使えるようになったりするとかはないの？」

「あー、それを言ってませんでしたね。」

「特典はですね・・・、嘉瀬さんの望む能力です！ おお、神様太っ腹あw」

「何か希望の能力がありますか？」

「はい！ ありますううう！」

「えつとですね、xxxつて感じの能力が欲しいです。」

「ほうほうxxxな能力ねえ、他には無いの？」

「後は行くxxxも欲しいな、行ってxxxじゃ話にならないし（笑）。」

「以上でいいですか？ というか異世界トリップ権行使という事でいいですね。」

「はい、よろしく願います。」

「少し待ってくださいね、神様に報告しますので」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「お待たせしました、全てOK出ました。すぐに出発されますか？」

言葉には出さずにくくりと頷いた。

「では、行ってらっしゃいませえ〜。」

くプロローグく（後書き）

仕事の昼休みや移動時にちょこちょこ書いた物なのでサラッと流してください。

誤字・脱字・文がおかしい所が多々あると思いますが冷たい眼で見
てやってくださいw

おかしい所あれば連絡いただければ嬉しいです。

（頑張つて続けようかな？とか考えていますが、忙しいので週1
2でUPできれば・・・）

第01話 大地を踏んでからの回想・・・

皆さんいかがお過ごしでしたか？

神様と別れてから早2週間が経ちました。

到着してから今日までのことを思い出すと・・・涙が止まりませ
ん。

・ ・ ・ ・ ・

こちらの世界に来た感動に浸っている時に背後からいや々な気配と動物の鳴き声が聞こえてきました。赤黒い体毛に額には白く大きな角が生えており、口の鋭い犬歯を持った狼さん？が俺を狙っていました・・・。

はい、回れ右して全力で走り逃げました。

狼さん？から逃げ切って、ひと休みしている時でした、無数の人影が俺の方に近づいてきてその人たちの手を見ると、短剣やらロングソード？的な物を持った盗賊さん達が今にも襲い掛かりそうな感じでした・・・。

はい、また回れ右して全力で走り逃げました。

盗賊さん達から逃げ切つて、ひと休みしている時でした、急に空が黒くなってきて雷が鳴り、大雨になってきました・・・。

はい、またまた回れ右して全力で走り雨宿りできる所を探しました。

そんな事を繰り返して繰り返して時間が経っていきました。

・ ・ ・ ・ ・

今はこの異世界唯一のグローシアス大陸の首都グローシユの商業区の外れの外れにある2DKの平屋・庭付きに住んでいます。(ちなみにこのお家は神様にイタダキマシタ・・・神様バンザイ)

とまあこれまでを簡単に説明していると、やっと家の片付けが終わりました。

「はぁー終わった」

明日から製作に移れるかなあっと思いつながら・・・。

第01話 大地を踏んでからの回想・・・（後書き）

かなり文章が入り乱れております・・・がお許しください。

第02話 採取と鑑定

「薬草・毒草とつたどお〜！」

・
・
・

なーんて事を言いながら首都グローシユ近辺で素材集めをやっております。

素材集めに便利なのが神様に貰った能力の一つ『鑑定』！！！！
素材や商品を手に取り鑑定と思うとそれの特徴などが分かり、さらに地球に近いものに変換説明してくれるのが嬉しい。ちなみに薬草と毒草はというと・・・

【薬草】 《説明》グローシアス大陸全域で自生している植物で見た目は雑草みただがいい香りがする

《効果》食べることで体力微回復、採取して1週間前後で効果が少なくなっていく、2週間経過すると完全に効果を失う&お腹を壊す

【毒草】 《説明》グローシアス大陸全域で自生している植物で薬草に似ており赤いスジが入っているのが特徴、慌てると薬草と間違えるので注意

《効果》 食べることで毒状態になる、死ぬことは無いが2〜3日は寝込む

こんな感じで分かります。 うーん便利便利。

おっと、採取の続き続きと再開しようとした時に、少し離れたところに森が見えたので足を運んでみる事にしました。

「何かいい物あるかな」

俺は鼻歌を歌いながら森へ向かっている途中で、横を流れている川の中に光っている物を見つけた。川は浅く膝下ぐらいまでしか水がこなさそうだったので期待を膨らませ川の中へ入っていった。

「んー、何かな・・・？ 石・・・？」

と思いつつも拾い上げた時でした。

若干青い色が入った石で、近くで見ただけでは気に掛けるものではないがそれを手に取ると魔力の流れを感じ取り、すぐに『鑑定』・・・

【魔流石・水】（まりゆうせき） 《説明》 見た目は普通の石だが、この世界に存在する魔属性を吸収・貯蓄することが出来る。但し、吸収できる魔属性は近くで発生している1種類のみ。これは水の中にあつたので水属性が貯蓄されている。

《効果》 武具などに属性

を付与したり、魔道具の材料としても使うことができる。但し、扱うには高い技術と知識が必要。

「おお！！！」

『鑑定』の後思わず声のでてしまった。

「これだよ、こつゆづの待ってたって。」

と、感動しながら水の中に残っている【魔流石・水】を拾っていた。全部で10個ゲット、何に使おうかなと考えながら、ホクホクした顔で再び森へ向かいました。

歩くこと10分少し、森に到着すると早速果物を見つけました。

「うーん、感じていけば結構な数の採取が出来そうだし『鑑定』は後でまとめてやるかな。」

自分に言いながら森の中に入って行きました。森は思った以上に深く、緑が豊かで小動物が木の实や果物を食べている所が目についた。その横に実っている果物をもぎ取り、服で簡単に拭き一齧り・

「美味しい！」

噛んだ所から果実の甘い汁が流れ出し、服に落ちるのも気にせず夢中で食べていた。

(ベトベトになった服は帰りに川でサツと洗いました、ふいーちかれた)

採取を再開して1時間ほどで岩陰にあったキノコ2種、木に出来ていた蜂の巣3個、倒木をゲットし『鑑定』を。

【りんご】《説明》グロアシアス大陸全域でとれる果物で、特にグロア産は甘みが強く人気が高い

《効果》特になし

【グロアキノコ】《説明》グロアの森に自生するキノコで、見た目はシイタケに似ており色々な料理に合う

《効果》特になし

【グロア毒キノコ】《説明》グロアの森に自生するキノコで、シイタケに似ているが傘の部分に黒い斑点がある

《効果》食べることで毒状態になる、死ぬことは無いが毒草よりも毒素が強く1週間は寝込む

【グロアハチミツ】《説明》グロアの森に生息する蜂が作った巣にある甘い蜜

《効果》疲労回復

【ローヤルゼリー】《説明》グロア蜂が花粉や蜂蜜を食べ、体内で分解・合成し分泌した物質で数が少なくかなり貴重。多くの栄養素を含む

《効果》体力小回復・疲労小回復

【グロア木】《説明》グロア森に自生する木で、家具などに使われることが多い

《効果》特になし

「まあ採取初日としちゃ上々かな、そろそろ日が落ちそうだし・・・
てか重いから帰ろっつと」

採取を終わり、重い荷物を引きずりながら町へ帰りました。

荷物運ぶ為の物考えないとなあとつくづく感じた俺でした。

第02話 採取と鑑定（後書き）

投稿ポチっとなあ・・・。

読んでくれる方がいたとは・・・驚き&mp・感謝です（ペロリ

第03話 市場調査

目が覚めて身体を起こすと

「ああー、身体痛えー」

近場で採取するつもりだったのに、森が見えたからって行くんじやなかったかな、けどまあ色々手に入ったからよしとするかな。

素材もちよつと集まったから、何か作ってみたいんだけど・・・何がいいかな？というかさろそろ商売しないと貰ってたお金がやばいんだよな。武具は素材ないから駄目だから道具になるけど、どんな物が需要あるんだろう？ うーんと考えてみたがこちらの事は分からないので・・・。

「よし、今日は市場調査に行くことにしよう」

思ったらすぐ行動！

「ぐるぐるるる〜／／／」

・
・
・

「商業区行く前にお腹に餌入れてあげないと」

お腹がすいては市場調査ができぬ！と言う事で行きつけの《ロック亭》に行くことに。

こっちにきてからずっとお世話になってるんだよな。

カラン カラン

ドアを開けると色々な食材やスパイスなどのいい香りが嗅覚を刺激され、涎が出そうになってしまい慌てて口を閉じるのはいつもの事だ。この店から離れることは出来そうにないなと思いつながらカウンター席に座った。

「おやっさん、おすすめ2人前よろしくー」

「おお！シンゴか、ちょっと待ってなすぐ作るからよ」

「よろしくー」

今日のおすすめが何かなっと期待しながら待つこと10分少々

「お待ち！今日は野ウサギのグリル・季節野菜のサラダ・特製スープ・パンだ」

「残すなよ」

「おやっさん、そんなことするわけないじゃないですか」

野ウサギのグリルは焦げ目がいい感じについて鼻を刺激してくるスパシーな香りがしており、季節野菜のサラダは色とりどりの野菜が目を楽しませてくれ、特製スープは語るまでも無く《ロック亭》最高のスープだ。

手を合わせて 「頂きますー！」

もぐもぐ・・・
ずずずー・・・
もぐもぐ・・・
ずずずー・・・

「あー」ちそうさまでしたー！」

「おやっさんの飯はいつ食べても最高です」

「いつ見てもいい食いつぶりだ」

「じゃ、おやっさん代金ここに置いときますね」

カウンターに100クローレ置き席を立った。

「おう、また来いよ！」

カラン カラン

「さてと腹も一杯になったし行くとするか」

俺が商業区へ向かっている間に簡単にこの世界と街を説明するぜ・
・っつて前にも言ったかもしれないが気にしないでくれ。この世界にはグローシアス大陸一つしかなく、その中心地が首都グローシユだ。(人によつては王都つて言うらしい、どつちでもいいけどな)

まずは、この世界には6種族存する、人族・エルフ族・ダークエルフ族・妖精族・獣族・竜族・魔族だ。皆もだいたいどんなのか分かっていると思うから説明は省かせてもらうぜ。

次は街の事だ、首都グローシユは6つの区域、王城区・居住区・学

問区・商業区・職人区・自由区に分かれている。

《王城区》はこの大陸を治める王がいる所だな、まあ俺には縁の無い所だから気にする必要は無いな。

《居住区》は文字どおりだ、あえて説明するなら人が住んで生活する所だな。そのまんまだな。

《学問区》は騎士・魔術養成学校・研究所があるな、学校は貴族しか入れなかつたみたいだが数年前から平民も入ることが出来るようになったみたいだ、ただ色々必要になるみたいだが。たとえばお金とか・・・やつぱりお金とか。

《商業区》は様々な商品を取り扱ってる所だな、例をあげると武器・服・食料・家具とかだな、他にもあるが・・・気になったら自分で見に行ってくれ。広いから迷子になるなよ。

《職人区》は商業区で売っている物を作っているところだな、中には卸さないで自分で売ってるやつもいるみたいだな・・・って俺のとだな。

《自由区》は他の区と違って基準が無いみたいだから、色々な店があるな。

後区域は、王城に近い方から上層・中層・下層って分かれてて、客層が変わってくるからな。上層は貴族様で下層は平民って感じた。中層はどっちも見かけるな。

それとギルドも説明しないとな学問区は魔術ギルド、商業区は商人ギルド、職人区は匠ギルド、自由区には冒険者ギルドがあるからな！忘れるなよ！

金のことを話してなかったな、ここグロージャスでは金の単位はクローレ(KR)って言うからな。1KRは大体10円ぐらいだ。金の種類は半石貨1KR、石貨10KR、半銅貨100KR、銅貨1000KR、半銀貨10000KR、銀貨100000KR、半金貨1000000KR、金貨10000000KRとなつていて、平均1食50KR前後、宿は100KR辺りだな。

とりあえず以上だ、そろそろ商業区に着きそうだからな。じゃあな……

「到着〜！」

つてどの店がいいかな。辺りを見渡してみると人の出入りが多い店があつたのでそこに入って行つた。店内は所狭しと様々な商品が並んでおり、多くの客が商品を手にとって財布と相談しているようだった。その中の1人が白く丸い物を持っているが気になり、後ろから覗いてみた。

「何だろう？ うーん……ボール？」
考えても分からないときは『鑑定』だ！

【火薬玉】

《説明》丸めた火薬を紙で包んだ物、導火線に火をつけると爆発する
《効果》中心から1m範囲に衝撃と火傷状態、中心から離れると効果も下がる

思った以上に弱いな、これだと威嚇ぐらいにしかならないんじゃないや

ないかな。

金額を見ると、1個200KR!!!

この効果でこれじゃ高くねえ？俺だったらもつといい物作る自信あるし・・・よし、心にメモメモと。そういや火薬って幾らぐらいするのか考えながら店の人に聞いてみた。

「すいませうん、火薬って置いてますか？」

「火薬ですか？あまり出回らないので無いですね。ごめんなさい」

「いえいえ、気にしないでください。有難うございました」

量が無いのである値段なのかぁー、とりあえずそれはおいといてと・・・回復系の道具って薬草しかないな、状態回復系も少ないしこの辺を充実させるかな。金額も異様に高いしね薬草150KR、毒消し草200R、麻痺消し草200KRだもんな。

まー道具はこんなもんでいいかな、次は武器屋だ！

・
・
・
・

うーん、こつちも高いなー

鉄の剣800KR、鉄の槍1000KR、鉄の大剣1200KR
って同じ素材でこの差は使っている量だろうな。おっと聞くの忘れ

るところだった。

「すいません、属性武器と違ってありますか？」

「うちに置いてるのはこれだけだね」

そう言いながら腹の出た貫禄のあるおっちゃんが持ってきたのは鞘は黒くそれから抜かれた刀身は少し赤く染まった片手剣だった。

『鑑定』！

【鉄火の剣】

《説明》鉄の剣に火属性を付与したもの

《効果》攻撃時に火属性ダメージ（微小）を追加・一定時間火属性・火傷状態に

「ちなみにお幾らですか？」

「8000KRだよ」

「なかなかいいお値段ですね」

「そうだな、だが鉄の剣に付与されてるからまだ安いほうだぞ」

「鉄はまだ属性付与しやすいからな、これが鋼とかになると最低でも2倍はするぞ」

「それに火は基本属性だから、これが変化属性やその上の特殊属性になるともつと高くなるぞ」

色々説明をしてくれた武器屋のおっちゃんにお礼を言いながら帰路についた……。

早く武器を作れる素材集めようと思う俺でした。

第03話 市場調査（後書き）

少し修正

第04話 道具作成

市場調査を終え、まずは回復・状態回復系の道具を作ることにした。とりあえず体力回復の道具は薬草をベースに作るんだけど、神様から貰っていた残りの能力を紹介しとこう。

まずは【造形魔法】だ！これは基となる物質に完成形を思い描きながら魔力を込めて形のある物を作る魔法だ。普通に錬金術でいいんじゃない？って思ったたろうけど、それじゃあれかなーって・・・と言っわけで【造形魔法】になったんだ。それと物を作る以外にも戦闘にも使えるから便利な能力だ。

それと【付与魔法】これは武具・道具なんかに特殊効果・能力をつけれる魔法だ。【造形魔法】あつたらいらんじゃねえ？と思うかも知れないが、【造形魔法】は特殊効果・能力を付ける事が出来ないからこの能力を貰ったわけだ。物を作る人間には最高の能力と俺は思うんだが・・・どうだろうか？

それとあと1つ能力を貰ったはずなんだが使うことが出来ないんだ、あの神様のパシリがミスったに決まってる！ そのうち使える事を祈ってるぜ神様！

...

まずは回復道具からなんだけど、道具屋では薬草しか見かけることができなかった。薬草しか出回って無いのかな？けど薬草じゃ効果は低いし、味もきついから変えたいし、長期保存が出来ないのでこの3点を改良してみようと思ってる。

それとこれで金額じゃ高いしね、他の店とに差が出来ちゃうけどその辺はご愛嬌ということ。

で、効果アップの方法は、魔力を込めれば少しは高くなるかな？と考え、保存はとりあえず乾燥させたらいいか？と言う感じで決まった。

あと作り方も2通りの作り方を試して見ようと思う、たいした違いじゃないがどんな効果になるか楽しみだ。

《簡単作成編》薬草を用意し、乾燥した1cmぐらいのキューブ形をイメージしながら魔力を込める！

【造形魔法・道具作成】クリエイション

シューイイイン……

「おし、完成。『鑑定』で確認確認つと」

【乾燥薬草】

《説明》薬草をキューブ形に圧縮し乾燥させたもの

《効果》体力小回復・1ヶ月は保存可能

「生のよりは少し効果良くなったな、特に保存が・・・味はどうかな？」

サクサク・・・ゴックン。

「苦味はだいぶましになったけど、もう少しかな」

まあこれは置いといて違う作り方でやってみるかな。

《応用作成編？》薬草を用意し、鍋に適当に切った薬草を入れ、ひたひたに水を入れてドロドロになるまで魔力を込めながら混ぜます。ドロドロになった薬草を乾燥した1cmのキューブ形をイメージして再び魔力を込める。

【造形魔法・道具作成】

クリエイション

シューイイーン・・・

「『鑑定』つと」

【乾燥薬草】

《説明》薬草をキューブ形に圧縮し乾燥させたもの

《効果》体力中回復・2ヶ月は保存可能

「おーいい感じに効果上がったな、魔力の込めた量で変わったのかな？後のほうが魔力込めてた時間は長かったしな」

簡単作成レシピで魔力を込める量を増やして作ってみると応用作成レシピと同じような効果になった。

「この感じだと、やっぱり魔力量っぽいな」

「大体込める量も分かったし薬草はこんなもんでいいか」

「けど【乾燥薬草】って名前は嫌だな、うーんそういや軍隊とかの野戦食って何って言うてたっけ・・・レーションだった？かな。ポーションと似てるけどまあいいか」

【乾燥薬草】改め【レーション】に決定！

（効果・保存の改良はできたが、味は金額が高くなるため一時断念。そのうち改良しようと思う俺でした）

よし次は状態回復だな、一番需要のありそうな毒消しから作るとしようって毒消し草無いし、毒草ならあるんだけど・・・おいおい。

仕方ないからこの前に採って来たの使って何か作っておくかな。

まずは【りんご】から・・・

「何にしよう？ジャムとリンゴチップでいいかな」

ジャムは普通に作ってみるかな、芯を取ったりんごを小さめに切って鍋に入れて焦げ付かないようにりんごの形が崩れるまで炒め煮にしてと・・・ん何で砂糖使わないのかって、そりゃあ持つてないし高いからだよ。別に使わなくてもこのりんごの甘みだけで十分と思っぜ。

おし、完成。

出来たたてのほんのりピンク色のりんごジャムを一口！！！！！！

「美味しい、甘酸っぱくていくらでも食べれそうだ」

冷ましたジャムに魔法コーティングを掛け瓶に入れて棚においた、
だって早く片付ておかないと全部食べちゃいそうだったから。

次はリンゴチップだけど、オープンなんて無いし魔法でやるか、
りんごは芯を取って薄めの一口大サイズに切って乾燥されてるのを
イメージ。

【造形魔法・食材作成】

クリエイション

シュイイイン・・・

「便利だな」

【グローアキノコ】は庭に置いて天日干しで1週間ぐらいは放置
っと。美味しくなれよ！

最後は【倒木】だけど、これは紙でも作るかな。パルプって木
からできてたと思うんだけど・・・、まあ試して見たらいいか。サ
イズ的にB4ぐらいがいいかな、それぐらいの大きさをの紙をイメ
ージ、イメージして魔力を込める！

シュイイイン・・・

「ちょっと色が悪いな、少し黄色っぽいぐらいだしいいか」

まとめて『鑑定』っと

【りんごジャム】

《説明》りんごを煮詰めて作ったもので甘酸っぱい

《効果》幸せになれるかも

【リンゴチップ】

《説明》りんごを食べやすい大きさに切り乾燥させた物でほんのりあまく食感がいい

《効果》幸せになれるかも

【干しグロアキノコ】

《説明》グロアキノコを1週間天日干しにしたもの

《効果》生よりも栄養価が高くなっており風味も増している

【魔法紙】

《説明》グロア木から作った紙で魔力を含み少し黄色っぽい

《効果》魔力を含んでいる為魔力に反応する

今回はこんな所かな、ハチミツとローヤルゼリーは加工するよりそのままの方が高く売れそうだから瓶に詰めて置いておこう。

道具を作ったけど、やっぱり道具を作りたい！作りたい！作りたい！心の中で叫びました。

次は武器を作るために鉱石を手に入れるぞ！と意気込む俺でした。

第05話 鉱石を求めて・・・

俺は今グローシユから10kmほど離れたクルナ鉱山に来ています。額に汗をかきながら木々に挟まれた山道をヒューヒュー言いながら登っています。

「っ、疲れた。 やっぱり頼めば良かったかな？」

今更思っても仕方が無いのに・・・と自分自身に喋っていました。

こつなつたのには朝まで戻ります。

・ ・ ・

窓から朝日が入り込み、その光を受けた目が覚めた俺は寝ていた身体を起こし大きく背伸びをした。

「ああああ、っあー」

身体をほぐしながら窓を開け、冷たいながらも気持ちいい風を身に受けた。

今日の予定は武具作成に必要な鉱石を手に入れることだが、どうやって入手しようか考えていた。1つは俺自身が鉱山に採取しに行く、もう1つは冒険者ギルドに頼んで取ってきてもらうのだが・・・

どうしようかな？ギルドに頼んだら幾らぐらいするか聞きに行ってみよっか。

・ ・ ・ ・

「ギルドに到着！」

移動するのが早すぎるって？まー気にしない気にしない、そんな細かいこと気にしてちゃ髪の毛の毛薄くなっちゃうぞ

冒険者ギルドは自由区の大通りの一番目立つ所に建っていて、外観は白を基調とした造りで4階建てとなっていた。入り口は人が5人は並んで通れそうな作りでそこを抜けると、ものすごい活気と熱気が伝わってきた。中には多くの冒険者らしき人達がいて、その対応にギルドスタッフらしき人たちが走り回っていた。

「うーん、活気がいいな。」

そんなことお思いながら、空いているカウンターに座った。

「すいませーん」

「はい、お待たせしましたあゝ」

可愛らしい声が聞こえたので声が聞こえた方を見て見ると、腰まで届きそうな金色の髪に大きく印象的な瞳、均整の取れた身体の人族のお姉さんに釘付けになった。

「こつちの世界って美人さん多いな」

「当ギルドにお越し頂有難うございます、本日はどのような御用でしょうか？」

「えつと依頼のことでお聞きしたいことがありまして・・・」

「鉱石採取をお願いした場合の料金ってどれくらいになるのかな
っと思つて」

「採取の依頼になりますと、最低50KRからになります。」

「今回の鉱石採取となりますと、この辺りでは10kmほど離れたクルナ鉱山まで行くことになるので最低50KRは必要になる
と思います。さらに量が増えるにつれ金額も上がっていくのでハツ
キリした依頼料は・・・申し訳ありません ペコペコ」

「いえいえ、そんな事はないですよ。 有難うございました」

うーん思つたより料金高いし距離もあるな。けどこれだったら
自分で採りに行つた方がいいかな。っと思つちやつて、食料などを
買い・・・現在に至ります。

はうううううう><

山道を登って行きようやく鉱山に入り口に着いた時には、疲れで
その場に座り込んでしまいました。この状態では仕方がないので、
少し休息をとる事にしました。

腰に着けていたポーチの中から昨日作った【リンゴチップ】をポ

リポリと頬張りながら、しばし至福の時を味わった。

身体も心も落ち着いたところで、目的の鉱石採取を始めました。

「採るぞー！！！！！！」

最初は回りに落ちている石の中にいい物はないかを探すことにしました。だってその方が楽なんだもんw

それっぽい感じの石を見つけては『鑑定』を片っ端からかけているが、目当てのものは一つもありませんでした。やっぱり落ちてる中には無いか・・・やっぱり掘るしかないかあ。

さてどうする俺！掘るにもツルハシなんて物は持ってきてないぜ！（おいおい

じゃあどうするのかだって？決まってるじゃないかベイビー！魔法でちよっぴりぶっ放したらインデスヨ。それでは・・・シンゴいつきまーす！

てか、魔法をぶっ放したら一気に崩れてくるのが恐れがるので止めてツルハシを作ることになります。石しか見当たらないので、数個集めてツルハシの形・強度をできるだけ硬くイメージ！

【造形・道具作成】

クリエーション

シュイイイン

すぐ壊れそうだから『硬化』も掛けてっと。

とりあえず『鑑定』

【石製ツルハシ】

《説明》石でできたツルハシ。『硬化』が掛かっており通常のツルハシより丈夫

- 《効果》全て石でできているため手が痛くなりやすい
・硬化 物にコーティングする事により強度を上げる

「では、始めますか」

カツカツカツ
ガラガラガラ
カツカツカツ
ガラガラガラ
カツカツカツ
ガラガラガラ

掘り始めること数分 今までと違う黒っぽい色と赤っぽい色の鉱石が出てきた。

「これは期待できるかも」

期待を込めて『鑑定』

【鉄鉱石】

《説明》クルナ鉱山で採れる鉱石、赤鉄鉱と磁鉄鉱の2種類がある
《効果》特になし

「や、やつと……ゲットおおおお！」

これで気を良くした俺は時間を忘れて、掘る掘る掘る！

カツカツカツ……………
ガラガラガラ……………
カツカツカツ……………
ガラガラガラ……………
カツカツカツ……………
ガラガラガラ……………

「はあはあ、これぐらい採れば十分……すぎるかなw」

そんな事を言っている俺の後ろには、山積みになった鉱石があった。

夢中になって掘っていたので、日が落ちそうになっていた。今日はここで泊まることにした。さすがに山積みの鉱石を抱えて帰るなって出来ないもんね。

辺りに落ちている枯れ木を拾い、それに向かって燃える火をイメージ……………

『造形・火よ』
フォイア

すると、それは見る見る内にパチパチと燃え上がった。

おつと魔物除けに『結界』はつとかないと、焚き火周囲3mぐらいに対物理・魔法防御でいいかなつと……………。

『造形・防御結界』シユクセン

「さてと、これで一応安全かな？」

これから山積みの鉱石を持って帰るべく為のアイテム作りを始めます。考えとしては指輪タイプで、性能としては．．．．、検索機能と使用者権限有りの異空間倉庫かなあ。

とりあえずシンプル〜な指輪を．．．．。

【造形・武具作成】クリエイション

シユイイイン

えーっと、指輪に検索機能、使用者指定、あと劣化防止も付与しとくかな。

【特殊能力付与】アテイション

シユイイイン

「一応完成かな？」

『鑑定』

【異空間倉庫リング】

《説明》 異空間に物を収納することが出来る指輪

《効果》 異空間内は劣化防止が掛かっているので食材を入れても腐ることは無い、物名と数量の検索が可能、使用者指定で俺だけが使用可能

「んー、いい感じ」

「掘った鉱石を『収納』して・・・それでは、今日はもう疲れたのでお休みなさい zzzzz」

とまあ今日はこんな感じでした。

第05話 鉱石を求めて・・・(後書き)

駄文に磨きがかかって来ております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3200z/>

異邦のよろず屋さん

2011年12月29日00時33分発行